

寺報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



お寺での集まりに どうぞご参加ください



く、みんな胸の奥にため込んであるだけです。こんな不安な世の中であればこそ、もっと会って話をするべきなのではないか。電話やオンラインでは伝わらない、集まって話し合う機会を大事にしたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症問題に引き続きウクライナでのロシア侵攻問題、北朝鮮のロケット発射など心配なことが頻発しています。これからのような世の中になっ

ていくのでしょうか？新年度を迎えるにもかかわらず、不安な気持ちにさせる雰囲気

最近では思い溜めたものを吐き出して、話し合ってみる機会が少なくなりました。行事が減り、人に会うことが少なくなり、必要なことしか話すことがなくなってしまう、ちょっとしたグチ話が聞けなくな

ったように思います。決してグチがなくなつたのではない、みんなそれぞれ聞きたいことだけではない、話してみたいことを持ち寄つてく

寺院活動のための 新型コロナウイルス感染症拡大防止の方針

安芸教区志和組13カ寺

趣旨
現在、地域の様々な活動・行事が、また本山別院・各寺の法座や行事も自粛あるいは短縮や中止などの判断をとっております。(中略)
今後私たちの法座の機会を守り寺院活動を消極的なものにならないために志和組法中で協議、感染防止対策をとりながらより安全な法座を開催することを目的として、あらためて次の5点を志和組法中の方針として申し合わせることにしました。

志和組法中としての方針

- [1] 手指の消毒設備の設置、マスクの着用依頼、室内の換気、飲食提供に対する配慮等、適切な感染防止対策を講じること
- [2] 3密(密閉・密集・密接)の状態にならないよう互いに配慮を心がけること
- [3] 大声での発声、歌唱とならないように配慮し、又は近接した距離での会話等を控えるように呼び掛けること
- [4] 参拝くださる方には事前の検温をお願いし、37.5℃以上ある場合は参拝を控えていただくようお願いすること
- [5] 相手の痛みを知る仏教徒として、感染者・医療福祉関係者やその家族などを誹謗・中傷・差別になる言動を厳に慎むこと

夕べ活動お礼

仏教婦人会では毎年二月に夕べ活動を行っています。夕べ活動とは布施のこと。相手のことを思い、自分ができることを精一杯考えて行動することを行います。全国仏教婦人会連盟を通じてユニセフなどの大きな組織に献金するほか、身近な地域のボランティア組織の支援、お見舞いなどでの声掛け運動などに活用させていただきます。

護持会報告会

昨年十一月末から、令和四年度の護持会会費の納入をお願いしております。三月初め現在、約四百の皆さまからご納入いただき、引き続きご縁が広まりますようお願いをしております。重ねてご理解とご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

一語法話

『正信偈の十二光』

阿彌陀仏はすべての人を救うためにどのような仏になられたのか？親鸞さまはその働きを『正信偈』で十二の光とお教えくださいます。今回は十番目の光「難思光」についてです。どのような

私のハウレカ

いろいろな場面で「わかったぞ」と感じられたことがありと思います。このような皆さまのご経験を「ハウレカ(そうか!)」と題して掲載しています。仏教や浄土真宗に関することでも構いません。皆様方からの投稿をお待ちします。

降誕会

四月八日はお釈迦様の誕生日です。花祭りを行ってお祝いします。

五月十一日は、宗祖親鸞聖人の御誕生になられた日です。そのお誕生をお祝いするため、全国各地で降誕会が勤められます。

親鸞聖人は承安三年、日野の里で藤原氏の流れをくむ貴族、日野有範のお子としてお生まれになりました。母は吉光女と言つた女性であったと伝えられています。が確かな資料は残されていません。



(玉田義幸)
(中真直宗テキストから一部引用)

お働きなのか、親鸞さまのご和讃を通して味わってみます。

⑩難思光

「仏光測量なき故に難思光」と名けたり諸仏は往生嘆じつつ阿彌陀の功徳を称せしむ」阿彌陀仏がどのように私たちを浄土まで導いて下さる

族の時代から武家政治に変わる時代の変革期でありました。「保元の乱」、「平治の乱」と戦乱が続き、聖人四歳の時と七歳の時大地震が起り、五歳の時には都の三分の一が焼ける火災もあり、養和元年には大飢饉に見舞われるなど、父と四人の子供全てが出家しなければならぬという大変な時代でした。

私達は聖人のお誕生が無ければ、真実のみ教えに出会うことは出来なかつたでありましょう。聖人がお示しになった念仏のみ教えを誤りなく相続し、ようこそ私達の為に誕生下さりまして喜び、ますます法味愛樂させて頂きましょう。

のか、それを凡夫の智しか持たない私たちが理解する事はとてもできません。それは、お悟りを開かれた釈尊の教えによるしかありませぬ。つまりお経を正しく読み解くよりほかないので、でも釈尊も仏さまでありますので、その言葉も私の理解を超えています。

親鸞さまは阿彌陀仏に救われることを、不可称・不可説・不可思議とおっしゃっています。

「不可称」とは言うことが

できない、言葉が絶えてしまったということ。「不可説」も説くことができないということ。「不可思議」とは思議できない、想像もできないということです。

阿彌陀仏の偉大なお力は、私たちの想像できるようなものではありません。心も言葉もたえはてた、私の想像を大きく超えた働きが「難思光」です。あらゆる仏が、私が救われていくことと救う阿彌陀のことをお

行事予定

新型コロナウイルス感染症リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすこととしています。ご注意ください。

四月二十四日(日)

午前十時より 初参式
午後一時より 会員追弔会、聴聞

仏婦法座 (ぶつぽほづざ)

講師 呉市海岸 西岸寺
長岡 正信師

五月二十一日(土) 午後一時

宗祖降誕会 (しゅうそうごうたんえ)

六月十五日(水) 午後一時

安居会 (あんぐゑ)

講師 志和町志和 長松寺
笠岡 潤聖師

(前頁からの続き)

讃えくださっていると、親鸞さまは読み取ってくださっています。

私にとって不可思議で難思議な阿弥陀のはたらきを、

「藝州賀茂郡飯田村」

「獨歩行」

竹本省三

其の十

「初見された飯田村」②

まずは出来事を時系列に沿って見ましょう。

●永正五年(一五〇八)四月、大内義興は足利義隆に従い和泉国堺へ着陣し、六月に上洛。足利義隆政権誕生。

◇永正八年(一五一一)安藝・石州領主は長期の在京により疲弊して大内義興を残し先に帰国。

◇永正九年、天野、毛利、平賀、小早川ら九名の領主は「一揆状」を結んだ。

◇永正十五年、尼子経久や武田氏が中国地方を戦乱に巻き込んだので義興帰国。
●大永二年(一五二二)三月、大内義興は陶興房の大軍を安藝國へ侵攻させ十月、鏡山城に入れた。しかし戦局は俄かに悪化し興房は西部の戦線に釘付けとなったので、蔵田備中守房信に急遽置換えた。
◇大永三年(一五二三)六

不可称不可説であるにもかかわらず釈尊はお経の中で言葉を尽くして知らせてくださるのであつて、この不思議な救いのみ教えを親鸞さまは細心の注意を払って正確に読み解き、丁寧に

教えをお勧めくださっているのです。
私たちは自分勝手な理解に陥ることがないように親鸞さまのご指南をいたさながら繰り返しお聴聞を重ねて、釈尊のお言葉のなかの

月、その間隙を突いて尼子経久は伯耆國から毛利氏を随わせ鏡山城を包囲した。蔵田房信切腹し落城。「一揆状」を結んでいた毛利氏らは一斉に尼子側に寝返った。

◇大永五年(一五二五)元就は尼子氏と断絶。毛利・天野などは大挙して大内へ帰順。

◇八月、大内に従わない平賀興貞は大内側の父・弘保、弟・貞景と身内で争った。

◇十月、大内義興の嫡男義隆は弘保の知行を安堵。十一月、弘保は義隆に援護され頭崎城の興貞を攻めた。

●天文八年(一五三九)、天野興定は平賀興貞に陣替えする財満父子を誅罰。大内義隆は杉隆宣を東西条代官に置いたが、四年後には対尼子戦で戦死。内藤隆時の消息は不明。この頃、飯田土居屋敷を築いたのであつた。

◇天文九年六月、元就は造賀で尼子方・平賀興貞と交戦し竹林寺へ敗走させる。九月、尼子詮久は郡山城

阿弥陀の不思議にあわせていただきますよう。

編集後記
こども園職員さんから、境内を散歩中の園児の様子を教えてくださいました。本

周辺に陣を構え毛利を攻めたが、翌年正月、出雲國へ撤退。
◇天文十年五月、大内氏の命で元就は武田氏を一気に攻め滅ぼした。
◇天文十二年五月、大内軍は出雲へ撤退した尼子攻めに失敗し、止む無く敗走し帰国。この時、杉隆宣も戦死。新たに弘中隆兼を東西条代官に置いた。

清滝城の配置から曾場ヶ城の支城と思えるが「中国行程記」という秋藩の絵図に「財満市之進居城の由」と書かれているのでこれが通説になった。財満父子は既に誅罰され、辛うじて生き伸びた者は毛利氏の走狗となり命運を預けた。財満氏が戦国時代末期から江戸時代が始まる僅かな時期に清滝城の城番を命じられたことは頷けるが、毛利の殿様用説明図である。

◇天文廿年(一五五二)九月朔日、陶興房の嫡男の隆房は、義隆を長門大寧寺に囲み自刃させる。

◇四日、隆房の下で毛利軍は頭崎城を包囲、平賀家当主、隆保は自刃。

◇八日、毛利軍は飯田村に

着陣し飯田土居屋敷と城佛土居屋敷に分かれ補給休息。
◇十一日、飯田村を発ち、槌山城を包囲。
◇天文廿一年、菅田光則降伏、槌山城陥落。東西条の大内残党は壊滅。

●弘治元年(一五五五)陶晴賢(隆房)は厳島で毛利の夜襲に遭い自刃。弘中隆兼も殉職。
これらを踏まえると次のように理解できます。

財満氏は菅原道真を祖とする菅氏と共に播磨・赤松円心に同心し京都六波羅探題を落すが、円心衰退を見計り、美作國から東西条福本村勝山に移住した。「川上村史」には所領千貫と書かれているが、前回書いた内容に東西条では五千七十五貫余りが全石高であるので千貫となれば、東西条筆頭の武士となり、「一揆状」の筆頭に名を連ねていなければならぬ。また平賀氏を凌駕するので主従の立場が逆転するのである。別の条には、清滝城の城主を飯田某、曾場ヶ城の

城主を菅田宣實と書かれているが、根拠となる文献は無い。
では城佛土居屋敷の勧請主を考証してみると、それは妙福寺縁起にヒントがある。同寺の勧請は蔵田備中守(寺家村古屋城)、本家を裏切つて斬首された直信(志和東村古屋城)。殉職した盛信の居城は不明だが、正力村にも古屋城がある。諸々の条件を擦り合わせると蔵田一族が最有力で浮上する。

堂前の石造の重い天水桶を支えている天邪鬼をねぎらうてくれています(写真の一部加工あり)。
他人の苦しみを知る、やさしい人になってほしいです。

「呪符」は真言宗の御被儀式で使われていたことが分かり、妙福寺縁起と附合する。
今回は大内家、毛利家、吉川家、小早川家、平賀家、右田毛利家等を基に記述しました。一連の古文書は山口県文書館に保存されていますが、「関ヶ原の戦い」で敗軍の将として責任を負わされた毛利輝元の移封と共に転出したものです。記録に脚色や事実誤認が紛れ込むと歴史の本質を見失う現象が生じますが、それも歴史です。(次号へ続く)



堂前の石造の重い天水桶を支えている天邪鬼をねぎらうてくれています(写真の一部加工あり)。

「書道教室」

4月は1日、8日、22日の各金曜日が稽古日です。5月以降の予定については後日お問い合わせください。
(月3回、午後2時半～午後5時の間)
金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生のFAX0823-82-9565、または妙徳寺へご連絡ください。



「おみのりサロン」開催予定日

4月18日(月)、5月31日(火)
6月13日(月)
午後2時より1時間半
(『大乘』講読会と座談会など)

「写経の会」開催予定日

4月 22日(金) 午後2時より
5月 27日(金) 午後2時より
6月 24日(金) 午後2時より
申し込みは代表 西本さん(428-2466)、または妙徳寺へご連絡下さい。

「妙徳寺仏教壮年会例会」

(原則毎月第2土曜日)
4月 9日(土) 午後6時から定例会
5月 14日(土) 午後6時より定例会
6月 11日(土) 午後6時より寺報編集会議

「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」

4月 9日(土) 午後2時より
5月 14日(土) 午後2時より
6月 11日(土) 午後2時より
申し込みは代表 廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へご連絡下さい。



合同墓・墓地案内
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。たくさんのお方にご利用いただけます。

妙徳寺ホームページ
http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/
「みょうとくチャンネル」もご覧ください

志和組テレホン法話「みのりの電話」
433-4989 (しじゅうさんざん しくはっく)
4月 1日～ 八本松篠 岡本 法治
4月 11日～ 西蓮寺 西浦 憲雄
4月 21日～ 浄蓮寺 沼田 成子
5月 1日～ 長松寺 中田 輝道
5月 11日～ 西方寺 安國 真雄
5月 21日～ 寿福寺 田中 初美
6月 1日～ 妙徳寺 大江 了証
6月 11日～ 光源寺 堀 靖史
6月 21日～ 志和奥屋 向井 邦彦
志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。